

カナダ日本語教育振興会 2026 年度年次大会
CAJLE Annual Conference 2026
Conférence annuelle CAJLE 2026

「教える」から「寄り添う」指導へ: 主体性を支える日本語教育
From “Teaching” to “Supporting”: Japanese Language Education that Fosters Learner Autonomy
De « l’enseignement » à « l’accompagnement » : une éducation au japonais qui soutient
l’autonomie des apprenants

於：オンタリオ州トロント トロント大学
University of Toronto, Toronto, ON
UNIVERSITY OF TORONTO, Toronto, ON

8 月 18・19 日 / August 18-19 / 18-19 août

— 助成・後援・協賛・協力 / **Conference Sponsors・Supporters / Commanditaires・**
Supporters de la conférence —

The Japan Foundation, Toronto
Department of East Asian Studies, University of Toronto
Asian Institute, University of Toronto
Centre for the Study of Global Japan, University of Toronto
Mitsui Canada Foundation
Prince Takamado Japan Centre for Teaching and Research
Japan Communications Ltd.
Blue Tree Books Ltd.
Consulate General of Japan in Toronto
CASLT: Canadian Association of Second Language Teachers

【基調講演】

主体性・自律性を育む日本語教育：アドバイジングの視点から
木下直子先生（早稲田大学）

【教師研修 I】

Supporting Learner Agency and Autonomy through the Action-oriented Approach
Danielle Hunter 先生 (CASLT, University of Toronto)

【教師研修 II】

変化するカナダの教育現場における実践を考える：「教室の複雑さ」を越え、学習者と
共創する授業へ
中込達哉先生（国際交流基金、アルバータ教育・保育省）

【教師研修 III】

自律学習を促す仕掛けづくり：「引き出す」支援を考える
木下直子先生（早稲田大学）

【口頭発表】

S1-1 (発表辞退)

S1-2 Fostering Learner Autonomy in Beginning Japanese through Strategic Scaffold Withdrawal and Cultural Immersion

Zhaoyu Chen, Brian Andrew Benoit (McGill University)

S1-3 自律的なキャリア形成を支えるビジネス日本語教育の試み

山本晋也(周南公立大学)

S2-1 自律的な書き手の育成を目指すケース学習教材のシラバス試案ー学位論文執筆経験者の経験則をもとにー

小森万里(大阪大学)

S2-2 「教える」から「寄り添う」へー難民日本語教育のパターン・ランゲージから主体性支援を再考する

伴野崇生(慶應義塾大学)

S2-3 Bridging Schools and Local Communities: A Collaborative Study on School Communication Accessibility for Diverse Families in Osaka

Midori Tanimura (Ritsumeikan University), Akiko Mitsui (York University), Jisuk Park (Association for Social Networking Approach and COIL)

S3-1 学習者が生成 AI で取り組むデジタル学習ツール開発ー模擬授業連動型課題の実践報告ー

橋本拓郎(香港大学)

S3-2 音楽生成 AI「SunoAI」で促進する Z 世代の日本語教育

吉村由紀(マサチューセッツ大学アマースト校)

S4-1 日本語学習者の漢字学習に寄り添う取り組みー漢字への興味を深めるー

加山裕子(マニトバ大学)

S4-2 学習者の主体性を引き出す漢字科目ー漢字語彙の推測力と想像力を育むためにー

劉羅麟(早稲田大学)

S5-1 文脈を重視した日本語教育の実践：批判的視点の育成を目指して

相津頼子(カールトン大学、オタワ大学)

S5-2 日本語に対する視野を広げる日本語教育実践：日系カナダ人話者の日本語を用いた試み

善積祐希子(トロント大学)

S5-3 他者の発見・自己の発見・つながりの実現へ：ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)の枠組みによる COIL 型活動の実践報告

大久保範子(Knox English Network, NPO)、西村裕代(イエール大学)、ボークマン須賀敦子(ブラウン大学)

S6-1 言葉が身体の一部になるまで ―音読活動の実践報告―
秋本浩永(セントオラフ大学)

S6-2 日本語上級学習者が感じる「読み」の困難点―中国語話者の場合―
水戸淳子(香港大学)

S6-3 言語教師は、競技スポーツのコーチから教育者として何を学べるか
畠山衛(ビクトリア大学)

S7-1 プレイメントのためのスピーキングテストにおける日本語レベルの言語的指標―意見述
ベタスクに焦点を当てて―
ボイクマン総子(東京大学)、松下達彦(国立国語研究所／総合研究大学院大学)、根本愛子(東京
大学)

S7-2 上級日本語学習者の自己評価はどのような基準に基づいて構成されるか ― 学部修了時イ
ンタビューの質的分析 ―
大和祐子(京都大学)

S7-3 AI時代における教師の役割に対する学習者の期待 ―自律性の高いベトナム人上級学習者
の視点から―
レ・カム・ニユン(ベトナム国家大学ハノイ校・日越大学)

S8-1 学習者はなぜ主語を省略できるようになるのか ―視点の内在化と事態把握の再構築―
鄭在喜(早稲田大学)

S8-2 統語的複合動詞 V2 はどこまで教えられるか? ―意味の「見える／見えない」で分類す
る―
藤原美保(ウィラメット大学)

S8-3 理系研究室における言語行動と行動規範の分野差 ―主体的適応を支えるブレンデッド型
日本語学習コースの設計―
藤平愛美(大阪大学)

【ポスター発表】

P-1 AI 支援は「話す困難」を抱える学習者の主体性と合理的配慮をどう支えるか
赤井佐和子(ヒューロン大学)

P-2 日本語教員志望学生の文法性判断―変化する敬語表現への意識―
天野みどり(大妻女子大学)

P-3 英語を母語とする日本語学習者における拗音の音声生成の困難点とその要因―日本語教育
語彙表からの考察―
井下田貴子(早稲田大学)

P-4 日本語初級前半レベルからの自律学習—セルフスタディープロジェクト導入の課題と可能性—

池田朋子(マギル大学)

P-5 Genius Hour Project による自律学習の実践報告 —中上級日本語学習者の学習深化と主体性の形成—

石川比奈子(アルバータ大学)

P-6 *Ar* as a regular verb in standard Japanese

Michiya Kawai (Huron University, Western University)

P-7 Imagined Boundaries: Exploring Linguistic Boundaries in Translanguaging Communication

Mizusa Morii (OISE, University of Toronto)

P-8 Between Policy and Practice: The Impact of Canada's Bilingual Framework on Japanese Heritage Language Maintenance

Eri Tajima (The University of British Columbia)

P-9 ウズベキスタンにおける日本語教育 —産業・経済部門を中心に—

高木丈也 (慶應義塾大学)、阪堂千津子(東京外国語大学)

P-10 JFL 環境で教える L1 日本語話者教師の教育実践と文法のとらえ方

高梨信乃 (関西大学)

P-11 L1/L2 グループワーク談話における言語調整行動の分析

渡辺文生 (山形大学)

P-12 Rethinking Native-Speaker and Standard Language Norms: Toward More Inclusive JFL Pedagogy

Mingqi (Sherry) Zhang (Simon Fraser University)